

尿石症にご注意を!

段々日も短くなり、肌寒くなってきましたね。
気温の低下とともに、動物たちの飲水量も低下するこの時期。
意外と要注意な疾患の一つとして尿石症が挙げられます。
今回、尿石症についての知識をつけてしっかりと予防していきましょう。



尿石症とは

腎臓から尿管(腎臓と膀胱をつないでいる管)や膀胱、尿道(尿の排泄口につながる管)に結石が形成されてしまう病気です。また、結石になる前の段階の細かいものを結晶と言います。(肉眼では見えないことがほとんどです)

1 症状(膀胱結石、尿道結石の場合)

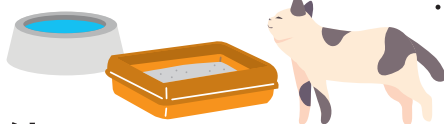
- ・トイレに何度も行く
- ・血尿
- ・トイレにいる時間が長い
- ・陰部を何度も舐める
- ・尿が少ししか出ない
- etc ...

※腎臓にも結石ができることがあります(腎結石)。
この場合は結石が大きくなると尿の生成にも影響を及ぼし腎不全兆候が見られたりもします。



2 主な原因

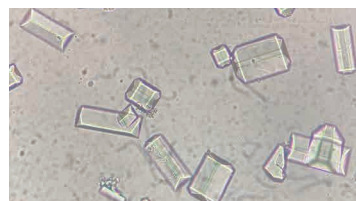
- ・食事(例:ミネラルやタンパク質が多く含まれるもの)
- ・ストレス
- ・飲水量の低下
- ・細菌感染や炎症
- ・トイレの回数不足
- etc...



代表的な結石

ストルバイト

尿のpHが上昇し、アルカリ性に傾いたときに発生
主に高たんぱく食、マグネシウムやリンが原因となる

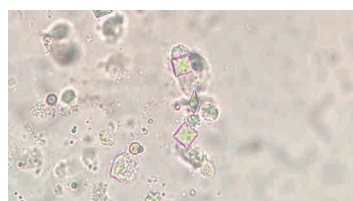


ストルバイト結晶

※両方とも石になる前段階の結晶を尿検査で見ることができます

シュウ酸カルシウム

尿のpHが下降し、酸性に傾いたときに発生
主に高たんぱく食、カルシウム、シュウ酸が原因となる



シュウ酸カルシウム結晶

検査方法

1 尿検査

尿の色、透明感のチェックのほか、定性検査(尿pHの測定、潜血、たんぱく、比重など)、顕微鏡検査を行います。
できれば朝一番の尿で検査した方が正確な結果が出ます。
できるだけきれいな状態で液体のまま持っていきましょう。



2 画像検査

エコー検査やレントゲンで膀胱内の状態や腎臓、尿管を確認することができます。ここで結石の有無を確認できることもあります。

治療法

ストルバイトの場合

ストルバイト適応の療法食を開始します。
療法食の目的:尿pHを下げ、6.5前後の弱酸性に保つ
原因となるミネラル分の含有量を調整など
安定したpHを保つことができれば結晶を溶かすことができます。
療法食を開始した後は定期的な尿検査を行います。

シュウ酸カルシウムの場合

結石になってしまった場合、食事療法では溶かせません。
外科手術によって尿石を摘出した後に、再度結石ができないように食事療法を行います。結石が見られず、結晶の段階であれば、これ以上結晶が増えないようにすることが大切です。療法食を開始し、定期的な尿検査を行います。
療法食の目的:尿pHを上げ、6.5前後の弱酸性に保つ
原因となるミネラル分の含有量の調整など

※膀胱炎の症状があれば、症状にあった治療も行います。(抗生剤や消炎剤の投与など)

動物病院に相談し、療法食で食事療法をはじめましょう。

※療法食以外のものは食べさせないように注意!

予防方法

- ・飲水量を増やす(例:水を飲める場所を増やす、ウェットフードの給与)
- ・トイレの回数を増やす(例:散歩の回数を増やす、トイレの設置場所を増やす)

おしっこの出方やトイレの回数に違和感があれば、お気軽にご相談ください。

